



発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

沙羅の樹

Saranoki

No.14

2020年秋号

10月10日発行

私たちの活動報告

各事業にご賛助及び
ご協力をいただき、
ありがとうございます。

7月1日～9月25日(順不同・敬称略)

7月

10日 「全佛婦」131号発行

28日 大賀美都子顧問本葬儀(本山東本願寺)

29日 (公財)全日本仏教会第1回社会・人権審議会(ZOOM会議)

8月

25日 第1回運営委員会(ZOOM会議)

・(公財)全日本仏教会 WEBシンポジウム

9月

4日 「沙羅の樹」14号編集会議(事務局)

9日 (公財)WCRP第2回女性部会委員会オンライン会議

11日 第2回運営委員会(ZOOM会議)



第2回運営委員会(ZOOM会議)

▼あおぞら奨学基金にご協力の方々

丸山弘子 小峰みな子
村井惇匡

▼心の募金にご協力の方

鈴木トヨ子

▼写経運動にご協力の方々

念法眞教 山田宣宗
村上和之 武藤しげみ
安部勢津子 佐々木公子
小峰みな子 遠賀令子
上原桂子 本多端子
海老名初江 吉田視知恵
大越昌子 東伏見具子
谷フサエ 末廣久美
山口美和 峰島征子
疋田美智子 中村京子
大野美子 横山俊子
椎名八洲男



information

第67回
全日本仏教婦人連盟
大会

日時

令和3年11月4日(木)11時～

場所

リーガロイヤルホテル東京

☎ 問合せは当連盟事務局まで
☎ 03-5772-0677

▼マスクの寄贈者

末廣久美 本多端子
末廣綾 高崎悦子
上原桂子 海老名初江

▼特別指定寄付

祐天寺

▼絵ハガキ300枚

牛久大仏



「子どもたちに豊かな地球をつなぐ キャンペーン」キックオフ

全国青少年教化協議会
東京慈恵会医科大学

神 仁

2020年度より、(公社)全日本仏教婦人連盟・(公社)日本仏教保育協会・(公財)全国青少年教化協議会の仏教三団体は、「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」を協働して実施することとなりました。

日本でもこの7月から、ようやくプラスチック製レジ袋が有料となり、CO₂(二酸化炭素)の排出や海洋のプラスチックごみ問題など、環境問題についての取り組みをテレビや新聞等で目にする機会が増えてきました。また、近年の猛暑をはじめ、毎年発生する豪雨災害やスーパータイフーンの到来など、このような環境変化が続くと、「子どもたちの未来の暮らしはいつたいていどうなってしまうのだろうか」と、強い不安を抱かざるを得ません。過酷な自然環境の中で子どもや孫の世代が苦しむことを知りながら、私たち大人が見て見ぬふりをす

ることはもはやできないのではないのでしょうか。IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、2013年に「第5次評価報告書」を公表しました。そこには、「地球温暖化は人間の活動が原因で起きている可能性が極めて高い(95%以上)」と記されています。IPCCの推計によれば、2100年の気温は低位推計でも0.3℃、1.7℃、高位推計では2.6℃、4.8℃も上昇すると予想されています。大気と海洋が温暖化して北極や南極の雪氷が溶け、海面が上昇することにより、現存する国や町が消滅することにもなります。また、永久凍土の中に古代より閉じ込められていたウイルスが再活性化し、新たな感染症のパンデミックが起る危険性も予想されます。

【2020年度 全国青少年教化協議会・全日本仏教婦人連盟共同開催】

いのちの共生を考える

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大は、私たちの生活環境を大きく変えています。私たちは、感染症の拡大を防ぐために、手洗いやマスクの着用など、自分自身の健康を守るだけでなく、周囲の人々への配慮も必要です。この大会では、感染症の予防と共生の大切さを学び、いのちの共生について考えます。

11/18 (水) 13:00-16:00

会場：東京グランドホテル

参加費：3,000円(学生1,000円) 会場費2,000円

主催：大井 玄先生 氏(いのちの共生)

協賛：全日本仏教婦人連盟、全国青少年教化協議会、東京慈恵会医科大学

申込先：(公財)全日本仏教婦人連盟事務局
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677 FAX 03-6434-0184

(参加申込書)申込締切：11月5日(日) FAX: 03-3541-6747

11月18日(水)13時より、東京グランドホテル(曹洞宗檀信徒会館)において、公衆衛生の専門家である大井玄先生を基調発題者に迎え、「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」プレスリリースおよびキックオフ企画を開催します。

一部の科学者は、一般の新型コロナウイルスの大流行を、気候の温暖化と関係付けて説明しています。実際に日本でも近年の温暖化により、デングウイルスの宿主であるヒトスジジマカ(蚊)の生息域が拡大していることが確認されています。2014年の夏には東京の代々木公園周辺を中心に、首都圏で162例の感染報告があり、社会を賑わせたことは記憶に新しいことでしょう。「子どもたちに豊かな地球をつなぐキャンペーン」は、仏教三団体が協働し、負の遺産を次世代に残さないために、釈尊が説いた縁起観(相互依存性)に基づき、環境破壊から環境再生・維持へと強い意志を持って実践するものです。社会全体が「少欲知足」を旨とする持続可能な「共生社会」を実現し、豊かな環境を子どもたちにつないでいくことを目指します。本キャンペーンに対する多くの方々のご協力・ご協働を心より願っております。



ロックダウン中のブッダガヤの大菩提寺（大塔）



子供たちに送ったマスク。今回は急な要請でしたので、有志でマスクをインドへ送りました。第二便から皆様にマスクのご寄付を改めてお願いさせて頂く所存です。

「つながり」の中で生かされている私たちは共に支え合い、力を合わせて、お互いの命を大切に誰かが安心して生活できる社会を取り戻してまいりましょう。特に仏教の基本概念である『正見』に立ち、根拠のない情報に振り回されたり、不安が生まれる偏見や差別の心を持たないようにならなければなりません。 (本多端子)



丸山弘子

早急な対応として、「油吸着材シート」に5万円の寄付をしました。このことをご報告いたします。

インドの現状とコロナ禍

当連盟が長年支援しているインドの子供たちにマスクを送りました。今のインドの現状を報告いたします。

(公財) 国際仏教興隆協会様から要請がありインド菩提樹学園の子供達へマスクを寄付させて頂きました。ガヤの街ではコロナウイルス感染者が増えてきているので心配な現状ですが、インド政府はブッダガヤに対して早くから警戒、対策を実施していることもあり菩提樹学園、光明施療院のスタッフなどには感染者は出ていません。三回にわたるロックダウンのため9月6日(予定)まで菩提

樹学園も閉じているので安心ですが、子供たちの学習の遅れが気になる状況です。政府のオンライン授業も地方では環境が整わないため今は無理な状況です。いつになったら学園に通えるのか見通しも立っていません。このような不安定な時期だからこそ子供たちが取り残されることがないように見守っていただく必要があります。 コロナ禍の中で私たちが知らされたことは、「寿命」と「和合」ではないでしょうか。つまり人の命には限りがあること。その私の命と他人の命を大切にしなければなりません。こんな時にこそ皆が力を合わせて共存していく『和合』の精神が最も不可欠なことではないかと思えます。

クファイバーを開発し、佐賀県で発生した災害時の油流出事故でその効果は実証済みです。同社はすでに第一便として「油吸着材シート」をモーリシャスに寄付しています。今回のクラウドファンディングは追加のサポートとして広く社会に寄付を募ったものです。 先ずは油を回収して、それから豊かな生態系を育み「生命のゆりかご」ともいわれるマングローブなどの環境回復の為に行動を起こそうと考えております。皆様には改めて募金のご協力をお願い申し上げます。

～2020年7月豪雨災害から2か月を過ぎた被災地の今～

被災地 NGO 協働センター 顧問 村井雅清

温暖化による気候変動の影響か、ここ3年連続で今年も7月の梅雨時に重なり豪雨が来襲、九州南部の熊本、大分などに甚大な被害をもたらしました。特に三大急流で有名な球磨川が氾濫し、南は八代市の下流から球磨川の流域に沿って、約45kmにわたって被害を受け、続いて熊本県球磨村の神瀬や一勝地、渡などの集落が広範囲に被害を受けました。また同県人吉市内の青井町、大垣町、薩摩瀬地域は2階まで浸水するという惨状になりました。1965年の水害による浸水位の2倍近くの高さまで水に浸かり、想

像を絶する事態になりました。加えて、約1か月余りにわたり球磨村の集落(78集落)が孤立し、避難所は元の居住地から2〜3時間も離れたところに位置するところあり、被害に遭った住まいを見ることができない、大事な仏壇だけでも早く出してやりたいと願っても、高齢の世代だけでどうしようもない事態になりました。 その上に、新型コロナウイルスの影響で、県外からのボランティアが入れないという複合災害になり、被災者自身で、この暑い中で泥出しや家具出しをしなければならぬという事態で

す。私は直後から球磨村渡(わたり)集落の区長さんとつながり、被災地を案内して頂いたのですが、これからの長い復興に向けてのご苦労を思うと、少しでもお役に立てないかと思案していたところに、貴連盟より貴重なご寄付を頂戴し、直接渡集落の区長様に寄贈させて頂きました。区長さん曰く、「こんな時に大変多額のご寄付を頂き、ほんとうに感謝します。」とお言葉を頂き、2回目の熊本訪問を後にしました。これからも被災地のことを忘れずに一日も早く復興できるようにお祈りくださいませ。ありがとうございます。

被災地支援

令和2年7月豪雨

7月豪雨で被害を受けた熊本県球磨村で支援を行う被災地 NGO 協働センターに災害支援金を寄託いたしました。ご報告とお礼が届きました。



←熊本県人吉市下青井高野寺(大覚寺派)。発災から2週間後の状況。本堂も庫裡もグジャグジャ。



↑住職曰く「ボランティアも来ない。行政も頼れない。自分たちでやるしかない!」と。



令和2年7月4日の水位を目標とした白拍子さんと旧建設者が電柱に標示する昭和40年、40年の水位

←2020.8.5. 人吉新聞

モーリシャス重油流出で「油吸着材シート」に5万円のクラウドファンディング

インド洋の島国モーリシャス沖で、現地時間の7月25日に日本の貨物船が座礁し、燃料の重油が千トン以上流出したといわれます。 海上の重油はなんとか回収できても、難航しているのは、マングローブ林の奥まで到達した油の除去です。「髪」が油を吸うというので、住民らは自ら切った「髪」で、油の除去を人海戦術で行っていますが、気の遠くなるような作業に心が痛みます。 今年できました全日仏婦の新しいリーフレットには、「海はひとつ」「私たちがつながっています」「海を守る力は、私たち一人一人にある」を掲げています。 そこで、全日仏婦はモーリシャスの海の汚染を重く受け止め、日本企業が開発した「油吸着材シート」に5万円のクラウドファンディングをしました。 エム・テックス株式会社は油吸着に着目して、ナノファイバー素材の「油吸着材シート」(マジック